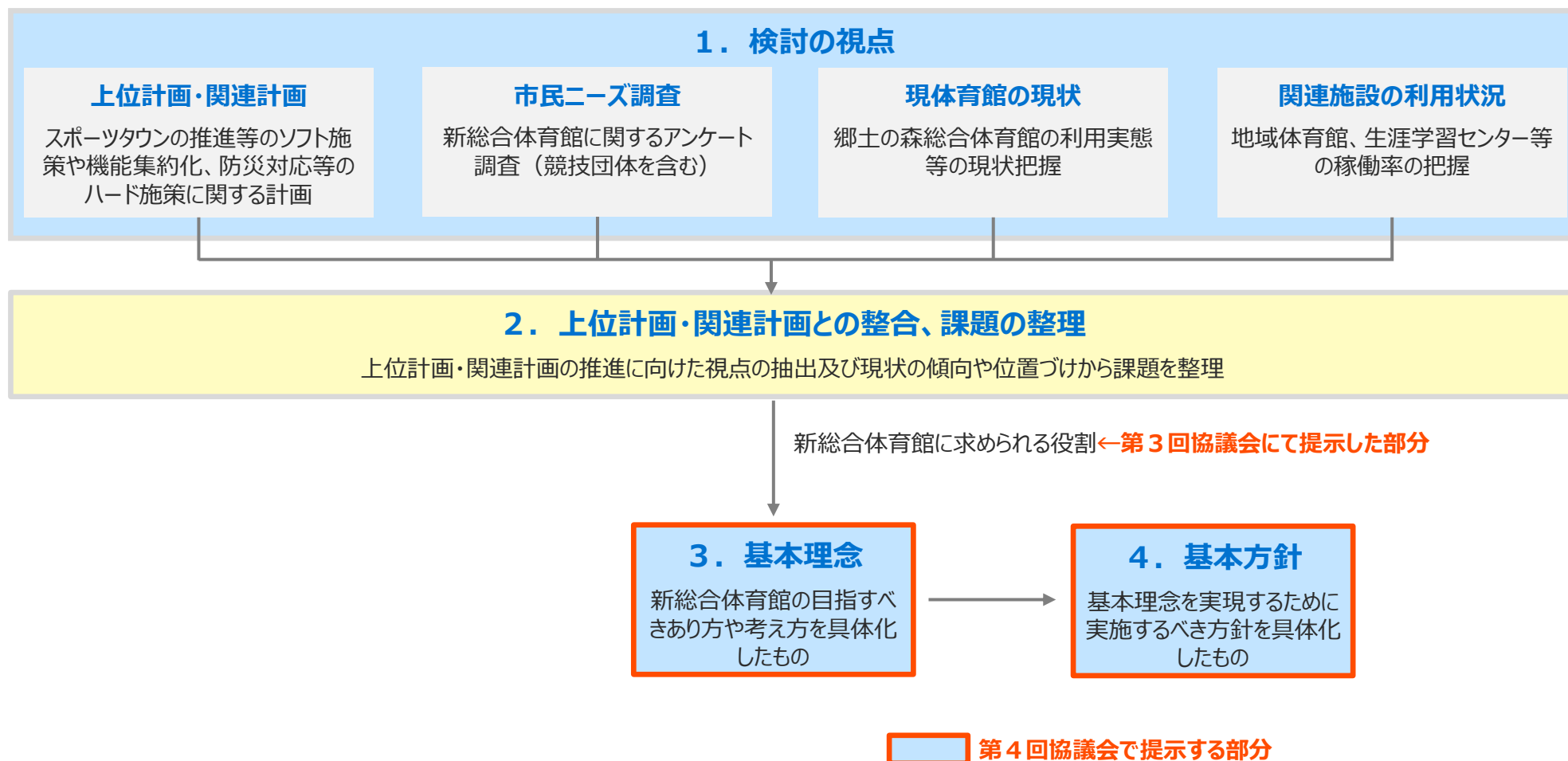


基本理念（案）・基本方針（案）について

基本理念、基本方針を検討するための全体像

- 基本理念、基本方針を検討するための視点を4つ設定し、それぞれ上位計画・関連計画の推進に向けた視点の抽出及び現状の傾向や位置づけから課題を整理し、新総合体育館に求められる役割を分析しました。
- 新総合体育館に求められる役割を踏まえ、新総合体育館の目指すべきあり方や考え方を具体化した基本理念(案)と、基本理念を実現するために実施すべき方針を具体化した基本方針(案)を設定しています。



- 基本理念、基本方針を検討するための視点を4つ設定し、それぞれ上位計画・関連計画の推進に向けた視点の抽出及び現状の傾向や位置づけから課題を整理し、新総合体育館に求められる役割を分析しました。

検討の視点	上位計画・関連計画又は調査	内容	上位計画・関連計画の推進に向けた視点の抽出又は現状の傾向や位置づけからの課題整理	新総合体育館に求められる役割
上位計画・関連計画	第7次府中市総合計画前期基本計画	基本目標3 多様性を認め合い 人と文化が磨かれるまち	本市に拠点を置くトップチームを始めとして、多様なスポーツ団体が活動しており、市民もスポーツに親しんでいます。今後も、市民がスポーツを身近に感じ、健康で元気に過ごせるよう、その機会の提供と環境の整備が求められています。また、ラグビーワールドカップ2019等のレガシーの活用やトップチームやアスリートの活躍を身近に観戦できる機会の確保が望まれています。	- スポーツを身近に親しむ機会を提供すること。 「みるスポーツ」として、観戦・応援ができる機会を提供すること。
	第2次府中市スポーツ推進計画	基本目標3 スポーツの場の整備・充実	従来の機能であった市民が「する」スポーツ利用に加え、「みる」視点として、市の特長・資源であるトップチームの観戦・応援環境の整備を行います。また、災害時に必要な機能なども考慮しつつ、移転（建て替え）に向けて、新たな市民ニーズなどに応じて、必要な機能の整理や規模、施設の運営手法などの検討を進めます。	市民ニーズに対応した必要な機能を導入すること。
	府中基地跡地留保地及び米軍通信施設跡地利用計画	利用計画	留保地の利用に当たっては、本市が有する「緑豊かなまち」や「スポーツタウン」、「文化・芸術のまち」などのブランドイメージを一層高めるとともに、本市の新たな魅力の創出につなげていくことを目指します。このため、良好な環境を形成する浅間山や都立府中の森公園などとの連続性や周辺住宅地との調和に配慮しつつ、緑をいかした新たな空間づくりに取り組み、その上で、本市の持続的な発展に向けて、将来を見据えた地域及び市全体の活性化に資するエリアを目指します。	「スポーツタウン」のブランドイメージ強化、市の新たな魅力創出、地域及び市全体に開かれた新たな賑わい創出に資すること。
	府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画	重点施策	総合体育館は府中基地跡地留保地に移転することとしているため、当該地に隣接する生涯学習センターの体育機能を統合して整備します。相撲場及びエアライフル場は、稼働率が低い傾向があることから、多機能化等を検討し、施設の有効活用を図ります。移転に向け、市内でも民間事業者で多く提供しているトレーニング室の在り方を検討します。	多機能化や施設の有効活用により、施設機能の複合化すること。

検討の視点	上位計画・関連計画又は調査	内容	上位計画・関連計画の推進に向けた視点の抽出 又は現状の傾向や位置づけからの課題整理	新総合体育館に求められる役割
上位計画・関連計画	府中市福祉計画 福祉のまちづくり 推進計画	基本目標 3 生き生きと健康に暮らすための環境づくり	生き生きと健康に暮らし続けるためには、市民一人一人が日頃から自らの健康に関心を持ち、健康づくりに取り組む必要があります。それぞれのライフステージに合わせた健康づくりへの支援と、介護予防の推進を図ります。	多様な世代の健康づくりが実現できる多種多様な利用に対応すること。
		基本目標 4 福祉のまちづくりの推進	年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できる生活環境その他の環境を作り上げるユニバーサルデザインの理念に基づき、高齢者や障害のある人を含めた全ての人が、安全で、安心して、かつ快適に暮らし、又は訪れることができるまちを目指し、福祉のまちづくりを推進します。	誰もが安全・安心に利用できるユニバーサルデザイン及びバリアフリーに対応すること。
	第3次府中市保健計画	基本方針 2 健康的な生活習慣を身につける（4）運動習慣を身につける	身体活動量の増加や、ソーシャルキャピタルの醸成が期待できる社会活動への参加をより一層推進していくことが重要 若い世代の運動不足の解消と、中年者と高齢者の外出による運動量の増加に向けた取組が必要	スポーツを通じた多様な世代の交流やコミュニティの形成に寄与する場を提供すること。
	府中市都市計画に関する基本的な方針（府中市都市計画マスタープラン）	まちづくり方針（1）にぎわいと活力のあるまちづくり ① にぎわいのある拠点市街地の形成	府中の森公園・府中基地跡地留保地周辺では、緑、文化、スポーツ、芸術などの多様な地域資源をいかしつつ、留保地の新たな土地利用を行うことで、新たな魅力としてのイノベーションを創出します。このことにより、周辺の生活環境の向上や新たな魅力の創出による都市間競争力の向上など、将来を見据えた地域及び市全体の活性化につながる、にぎわい及び活力を創出する拠点の形成を図ります。	文化活動やスポーツ活動を通じて、新たなまちの拠点の形成に対応すること。
	第3次府中市環境基本計画	基本方針 1 脱炭素型のまちを目指します	- 新築や大規模改築を行う学校や市の建築物においては、省エネルギーを進めるとともに、施設のZEB化を推進します。 - 再生可能エネルギー利用の可能性やライフサイクルコスト、施設の使用用途なども総合的に考慮した上で、今後、新築や大規模改築を行う学校や市の建築物においては、太陽光発電システム等の設置を検討します。	環境配慮型の設備や機能を導入すること。
	府中市緑の基本計画2020	緑の将来像の実現に向けた施策	府中基地跡地留保地については、周辺との緑の連続性や防災上の役割などを考慮するとともに、地域及び市全体の活性化に資する新たな価値を創出するため、核となる公園・緑地等を整備します。	公園・緑地等と連続性のある景観形成に対応すること。

検討の視点	上位計画・関連計画又は調査	内容	上位計画・関連計画の推進に向けた視点の抽出 又は現状の傾向や位置づけからの課題整理	新総合体育館に求められる役割
上位計画・関連計画	府中市国土強靱化地域計画	公園等の防災機能強化	避難場所や救出救助のための活動拠点等となる都市公園に、非常用発電設備等の防災関連施設を整備することで、避難者の安全確保や救出救助部隊の活動支援のための防災機能を強化していく必要があります。	災害時は、市民の避難所や地域内輸送拠点による活動支援に対応すること。
	府中市地域防災計画（令和6年修正） ※防災危機管理課のヒアリング	位置づけ、機能等	- 現総合体育館の収容可能人数（2,339人）以上の収容可能人数を収容できる施設 - 災害用トイレ、段ボールベッド、テント、非常食等が十分に収容できる備蓄用倉庫や、防災資機材の保管倉庫施設機能の複合化 - 避難所として充実した機能と地域内輸送拠点に指定できる防災拠点	- メインアリーナ以外で、災害時でも安全・安心に十分な避難者を収容できる空間を確保すること。 - 各機能や空間はフェーズフリーに対応すること。
市民ニーズ調査	R6年度調査	設問：新総合体育館では、主にどのような活動をしたいですか。	- 回答者全般では、「気軽に運動やスポーツができる」、「天気に関係なくいつでも運動やスポーツができる」、「いろんな種類の運動やスポーツを体験できる」のであれば、利用したいと回答 - 一般・保護者の回答者は、「スポーツ観戦ができる」のであれば、利用したいと回答 - 小中学生の回答者のうち、スポーツがきらい（どちらかといえばきらい含む）の回答者は、「自分に合う運動やスポーツを見つけられる」のであれば、利用したいと回答 - 回答者全般のうち、スポーツがきらい（どちらかといえばきらい含む）の回答者は、「コンサートをみることができ」のであれば、利用したいと回答	- 気軽な利用に対応すること。 - 施設内で創出される屋内空間の有効活用を図ること。 - コンサート等、スポーツ以外のイベント開催も想定した多目的な利用に対応したメインアリーナの形状や機能を備えること。
現体育館の現状	府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画	利用実態、課題	- エアラライフル場、相撲場及び会議室の稼働率は低い。エアラライフル場及び相撲場は競技人口が比較的少なく、諸室の利用用途が限られていることが影響している。 - ミーティングルーム及び会議室は、ダンス・ヨガなどで利用しやすくなるなど、諸室の多機能化が求められている。 - 競技面積が不足しており、プロスポーツ競技が実施できない。 - 昭和46年に竣工してから50年以上が経過しており、建物の老朽化が進行している。	- マルチスペース等により、多様な利用用途に対応すること。 - プロスポーツ競技が開催できる競技面積を確保すること。 - 災害リスクを考慮し、地域の防災力強化に対応すること。
関連施設の利用状況	公共施設カルテ（令和5年度版）	稼働率	- 生涯学習センターにある体育室は、稼働率が89.3%と市内の地域体育館の中で最も高い。 - 市内の地域体育館の体育室は、一般公開使用と貸切使用があり、各運営協議会で調整している。	既存の利用者に配慮した施設機能の集約化を行うこと。

基本理念（案）

- 新総合体育館の目指すべきあり方や考え方を具体化したものとして、基本理念（案）を設定しました。
- 基本理念、基本方針を検討するための4つの視点を踏まえて設定した新総合体育館の基本理念（案）と、次ページの基本方針（案）について、協議をお願いします。

府中らしさ

第2次府中市 スポーツ推進計画

- ラグビー2チーム、サッカー、バスケットボール、フットサル、野球といった多くのトップチームによる**ホームタウン活動**が展開されている。
- 府中市スポーツ推進委員会を中心としたポッチャの普及活動をはじめ、トップチームと連携した障害者（児）向けのスポーツ教室の開催など、**障害者スポーツの普及啓発**を推進している。
- 第2次府中市スポーツ推進計画において、スポーツの定義と、目指すまちの姿としての**「スポーツタウン府中」**を言語化して掲げている。
- 「する・みる・ささえる」スポーツに加えて、社会貢献をする人材・スポーツ団体の育成やボランティア活動の推進等、「**そだち・そだてる**」という**自律的な施策**を掲げている。

スポーツタウン府中の発展

この計画において、「スポーツタウン府中」とは、次のようなまちを意味します。

- 市民が日常生活にスポーツを取り入れ、元気で健康に暮らしているまち
- スポーツを通じた交流とにぎわいのあるまち
- 市民が市内トップチーム、アスリートに愛着を持ち、応援しているまち
- 市民がスポーツを通じて、市民としての誇りを持てるまち



新総合体育館に求められる役割（キーワード）

上位計画・関連計画	スポーツを身近に親しむ機会、観戦・応援ができる機会、新たな魅力創出、地域及び市全体に開かれた新たな賑わい創出、「みる」視点の導入、施設機能の複合化、多様な世代の健康づくり、多種多様な利用、誰もが安全・安心に利用できるユニバーサルデザイン及びバリアフリー、多様な世代の交流やコミュニティの形成、新たなまちの拠点の形成、環境配慮、避難者を収容できる空間の確保、市民の避難所や地域内輸送拠点、フェーズフリーに対応
市民ニーズ調査	多目的な利用に対応したメインアリーナの形状や機能、気軽な利用、屋内空間の有効活用、若者の居場所
現体育館の現状を踏まえた課題	多様な利用用途への対応、プロスポーツ競技が開催できる競技面積の確保、地域の防災力強化に対応
関連施設の利用状況	既存の利用者への配慮、施設機能の複合化

基本理念（案） ※新総合体育館の目指すべきあり方や考え方を具体化したもの

『このまちの誇り、スポーツタウンの未来をひらく多機能アリーナ』

～感動が生まれる場所。スポーツの力が育む、まちの誇りと魅力の新拠点～

基本方針（案）

- ・ 基本理念、基本方針を検討するための4つの視点を踏まえて設定した新総合体育館の基本理念（案）と基本方針（案）について、協議をお願いします。

基本方針（案） ※基本理念を実現するために実施すべき方針を具体化したもの

① 誰もが気軽に「そだち・そだてる、する、みる、ささえる」を感じることができる場の創出

- ・ 市民スポーツからプロスポーツまで幅広いスポーツ利用に対応した環境の整備
- ・ トップチームの観戦や応援を通じて、スポーツの楽しさや感動を体感できる「みる」機能の導入
- ・ 市民が日常的にスポーツを取り入れ、多様な世代の健康づくりを支える場の整備

② 多様な活動に柔軟に対応する、フレキシブルな施設整備

- ・ 多様な競技種目や利用形態に対応したスポーツ活動の場の整備
- ・ スポーツ活動に限らず、文化活動や地域イベントなど、多目的に活用できる諸室や設備の整備
- ・ 天候にかかわらず、市民が快適に健康維持ができる屋内空間の整備
- ・ 誰もが安全・安心に利用できるインクルーシブな環境整備
- ・ 環境負荷の低減に配慮した機能の整備

③ 地域のつながりを育み、交流とにぎわいを生み出す拠点

- ・ 誰もが集える、多様な目的に対応した施設機能の創出
- ・ 運動やスポーツを通じて、世代間交流やコミュニティ形成の創出
- ・ イベントのない日でも市民が日常的に立ち寄り、交流や活動を楽しめる場の創出

④ 災害時の市民の安全・安心を支える防災拠点

- ・ 災害時に市民が安心して避難できる環境の整備
- ・ 災害時に物資の受け入れ、配送等を行う地域内輸送拠点の整備

参考 | 他自治体における基本理念・基本方針の事例

出所	根室市総合体育会館基本構想（案） （令和6年／根室市）	小樽市新総合体育館基本構想 （令和5年2月／小樽市）
基本理念 （又はコンセプト）	スポーツ愛好家や屋内競技団体は勿論のこと、誰もが気軽に集える機能豊かな市民全体の施設を目指して	誰もが集い 未来へ続く 健康拠点
基本方針	 1 オールスタイルなスポーツの殿堂 競技スポーツを中心としたスポーツ愛好家や屋内競技団体は勿論のこと、健康・レクリエーション・障害者など、様々なスポーツスタイルへの対応で「スポーツの生活化」と「市民一人1スポーツ」を推進する施設を目指します。 2 市民に親しまれる安心で快適な施設 お子さんは勿論のこと、ご高齢の方や障害をお持ちの方など、利用者に優しく多くの市民に親しまれる交流の場とする一方、今後の建設費や運営費など健全なコスト管理に努めることを含め、誰もが気軽に集える安心で快適な施設を目指します。 3 競技大会や多彩なイベント等が開催できる施設 全道大会公認施設への適合をはじめ、新たなスポーツジャンルを含めた多彩なイベント等の開催など、交流人口の増加による経済的効果の創出も含め、機能豊かな施設を目指します。 4 災害から市民全体を守る防災拠点としての施設 地震や津波等の災害発生時に多くの避難者を収容できる大規模な避難所機能を有する防災拠点として、スポーツ以外の機能効果を受用できる市民全体の施設を目指します。	方針1 市民のスポーツ活動を推進し、健康寿命延伸に寄与する体育館 ● 現在開催されている各種競技の大会に対応した機能 ● 冷房設備の導入など、快適な競技環境 ● ランニングコースの設置など、一人でも気軽にスポーツができる機能 ● プール室を併設し、スポーツ施設の集約化による利便性の向上 方針2 気軽に市民が集い、多世代の交流を生み出す体育館 ● 親子でも安心して利用できる機能 ● 子どもが運動に親しみ、楽しく体を動かすことができる機能 ● 子供からお年寄りまで、多世代が交流できる市民交流機能 ● 各種イベントの開催機能 方針3 防災機能を備えた、安全・安心な体育館 ● 災害時にも機能を維持することができる耐震性の確保 ● 非常用電源や災害備蓄庫など、災害時の避難所機能 ● 誰もが安全・安心に利用できるユニバーサルデザイン 方針4 環境に配慮し、将来を見据えた、持続可能な体育館 ● 省エネルギー化及び再生可能エネルギーの活用 ● 人口推計や現在の稼働率を踏まえた、効率的かつ適正な規模と運営

参考 | 他自治体における基本理念・基本方針の事例

出所	各務原市新総合体育館整備基本構想 (令和3年3月／各務原市教育委員会)	富士市総合体育館整備基本構想 (平成30年6月／富士市)
基本理念 (又はコンセプト)	「誰もが快適に使用でき、健康づくりを楽しむ、にぎわいと交流、安全安心の拠点」	『富士山のふもと、市民の豊かなスポーツライフを支え、様々な人々が交流する元気創造の場』
基本方針	「誰もが快適に使用」 ユニバーサルデザインに配慮した設計により、子どもから大人、高齢者や障がいのある方、男女の隔てなく、快適に使用できる施設として整備します。また、一人の利用も団体での利用も、スポーツを「する人」、「みる人」、「ささえる人」等様々な立場の人に必要な機能・設備を備えます。 「健康づくりを楽しむ」 スポーツだけでなくレクリエーションの利用により、市民が楽しみながら日常的に体を動かすことで健康増進につながるような体育館として整備します。 「にぎわいと交流」 スポーツ活動から大会、イベント等、様々な活動を支える、にぎわいと交流が生まれる施設として整備します。併せて、これまでの市内の体育館では対応できなかった競技スポーツの大規模大会としての利用により、さらなるにぎわいと交流を生み出します。 「安全安心の拠点」 防災拠点としての機能を持たせることで、市民の安全安心のよりどころとなる拠点として整備します。	目標Ⅰ「する、みる、ささえる」場の創出 目標Ⅱ「市民交流の場」の形成 目標Ⅲ「交流人口拡大」の拠点整備 基本方針①多様なスポーツ空間の「競技スポーツ振興機能」の整備 基本方針②市民のスポーツ、健康づくりを支える「健康づくり支援機能」の整備 基本方針③利用者が自然と出会い交流できる「仲間づくり支援機能」の整備 基本方針④様々なスポーツを応援し楽しむ「観覧機能」の整備 基本方針⑤利用者を総合的に支援する「その他管理運営機能」の整備 基本方針⑥スポーツツーリズムのための「観光交流拠点機能」の整備